9806R871HC6702

MITSUBISHI

三菱クリーンヒーター®
〈密閉式石油ストーブ〉
形名
VKT-402J
VKT-302J
据付工事説明書
販売店・工事店さま用

■ 据付工事を始める前に必ずこの据付工事説明書をお読みになり、正しく安全に据付けてください。
■ 据付工事は販売店または専門の工事店さまが実施してください。お客さま自身で据付工事をしないでください。
(ご自分で据付工事をされ、不備があると排気ガス漏れ、感電、火災の原因になります)
■ 据付工事部品は必ず付属部品およびシステム部材をご使用ください。
(付属部品およびシステム部材を使用しないと故障の原因となります)
■ 製品本体を交換するときは、新しい給排気部品、ゴム製送油管を使用して据付工事を行ってください。
(排気筒はずれ検知装置が誤作動したり、排気ガス漏れ、油漏れの原因になります)

もくじ

ページ

据付新情報

据付け時に標高調節と給排気条件の設定が簡単にボタン操作でできます。
据付け時に設定を行ってください。 手順……ページ 14 参照

安全のために必ずお守りください

■誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、つぎの表示で区分して説明しています。

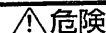
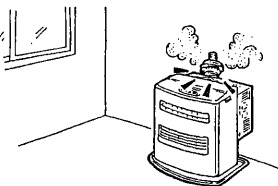
⚠危険	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷に結びつくもの
⚠警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
⚠注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

安全のために必ずお守りください

⃠ 禁止を表わす
❗ 指示に従い必ず行う

据付場所の確認

据付場所を決めるときはお客さまと良く相談してください。

⚠危険

屋内給排気厳禁

(異常燃焼し、一酸化炭素中毒の原因になります)

⚠警告

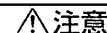
据付けや移動は販売店へ依頼すること

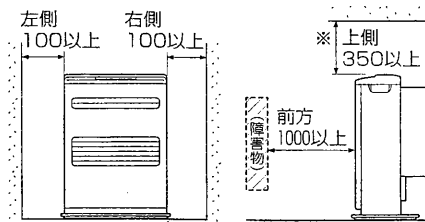
(お客さま自身で据付工事をされ、不備があると排気ガス漏れ、感電、火災の原因になります)

火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事は指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守る

給排気筒トップ閉そく危険
積雪の多い地方では、給排気筒トップが雪で埋もれない位置に取付けること

(排気ガスが室内に漏れ、一酸化炭素中毒の原因になります)

⚠注意

可燃物との距離を離す
この製品は防火性能評定委員会で認定承認されたものですので上側600mm以上の適用を受けず、下記の寸法で据付可能です

● 火災予防と裏面の点検のために「石油燃焼機器設置基準」に定められた空間寸法。
● 据付工事、エアーフィルターの清掃、アフターサービスに必要な空間寸法。
● 壁のビニルクロスの変色防止、温風の短絡防止に必要な空間寸法。

	理 由
上側	据付工事、エアーフィルターの清掃、アフターサービス、裏面の点検
左側	ビニルクロスの変色防止
右側	アフターサービス
前方	温風の短絡防止

単位(mm)

● マントルピースなど、上方、側方が固定壁で囲われたところに据付ける場合は、裏面を点検するため、いずれか一方に300mm以上のスペースをとることが必要です。
● ※別売りの中折れフィルターを使用しますと、200mmまで上側寸法を近づけることができます。
その場合は、左、右どちらか一方に、裏面点検のため300mmを確保してください。
● 製品の裏面には必ず背面カバーを取付けてください。
● 背面カバーと壁との間にはすき間をあけないでください。
(カーテンや紙などが入りますと、こげたり、においなどの原因となります。)
● 送油コックの開閉、電源プラグの抜き差しが容易にできるようにしてください。

⚠注意

次のような場所には据付けない
- ●水平でない場所、不安定な場所
- ●不安定なものを乗せた棚などの下
- ●可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所
- ●付近に燃えやすいものがある場所
- ●階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
- ●温室、飼育室など人のいない場所

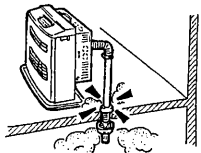
（火災や予想しない事故の原因になります）

●浴室など湿気の多いところに据付けない

（感電の原因になります）

給排気について

⚠警告

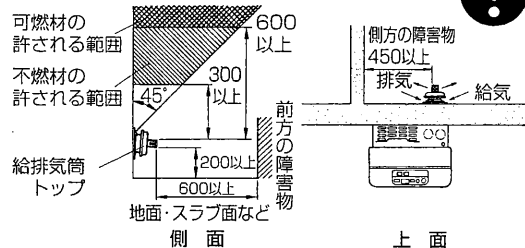
床下給排気禁止
必ず屋外に排気してください

（排気ガスが室内に漏れ危険です）

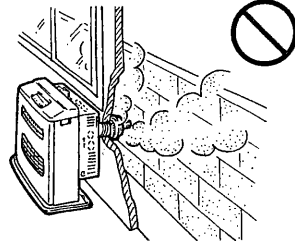
はずれ危険
排気筒を確実に接続し、しっかり固定してください

（風、振動、衝撃などで、はずれたりすると運転中に排気ガスが室内に漏れ危険です）

⚠注意

給排気筒トップは、十分開放された空間に取付ける
下図の寸法は防火上の必要寸法です

単位(mm)

600mm以上の寸法は、不燃材を使用する場合、300mm以上とする

排気ガスを滞留させない
給排気筒トップは、周辺に建築物の突出物等や障害物のあるところには取付けない

（排気ガスが給気側へ流入すると運転停止〔E-01，E-13〕することがあります）

排気ガスが室内（隣家も含め）に入りやすいところには据付けない

（室内空気が汚染されます）

高層建築の集合煙突を利用しての給排気工事は絶対行わない

（運転停止したり、不完全燃焼の原因になります）

⚠注意

排気ガスに注意
愛がん動物や植木などに排気ガスをあてない

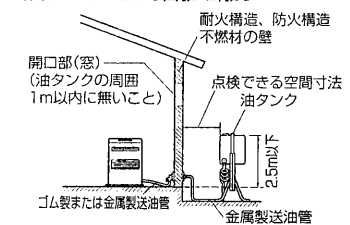
（動物が死んだり、植木が枯れる原因になります）

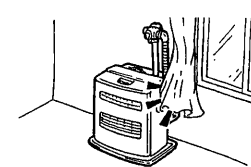
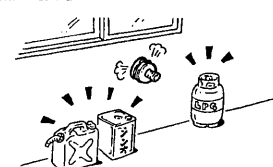
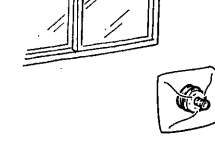
２台以上据付ける場合は各々の給排気壁穴の間隔は、水平方向に500mm以上、または垂直方向に１ｍ以上離すこと

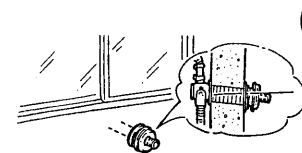
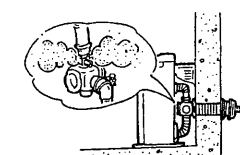
（排気ガスの給気口への吸い込みによる運転停止や不完全燃焼の原因になります）

ゴム製送油管の屋外使用禁止
ゴム製送油管は屋外で使用しない

（ひび割れを生じて油漏れの原因になります）

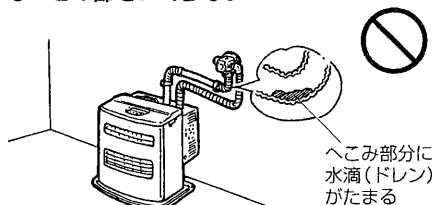
油タンクとの距離を離す

給排気筒の点検
（取付けが終ったら、もう一度点検してください）

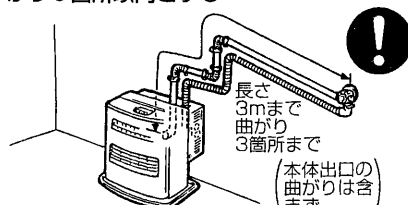
可燃物近接禁止

危険物近接禁止

ビニール袋などを給排気筒トップにかぶせない

（異常燃焼の原因になります）

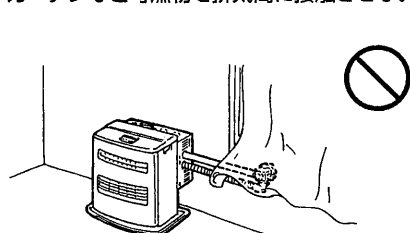
給排気筒トップは屋外に向かって下り勾配のこと

接続部のゆるみ点検

安全のために必ずお守りください

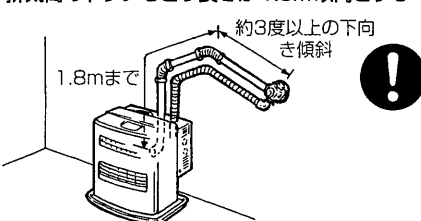
延長工事について

⚠注意

排気筒の途中に水滴(ドレン)がたまるようなへこみ部をつくらない

(排気ガス中のドレンが排気筒内にたまり、運転停止や、不完全燃焼の原因になります)

給排気の延長可能な長さは3m以内で、曲がり3箇所以内とする

(これ以上長く延ばしたり曲がりが多くなりますと燃焼空気が不足し、運転停止や、不完全燃焼の原因となります)

カーテンなど可燃物を排気筒に接触させない

(火災の原因になります
排気筒の近くにカーテンなどの燃えやすいものがある場合は、100mm程度以上離すか、配管カバー[システム部材]を使用してください)

排気筒のドレンもどり長さは1.8m以内とする

(燃焼によって発生する水滴[ドレン]のもどりは、排気筒長さが1.8m以上になると、製品内部にドレンがもどり、燃焼器を腐食させることがあります。そのために1.8mを超える部分は給排気筒トップ側に約3度以上の下向き傾斜をつけてください)

据付け前のお願い

給排気筒トップの先端(排気口)からドレン(水滴)が池に落下したり腐食させる恐れがあるところには取付けない	特殊環境(温泉害、塩害、大気汚染、化学薬品を使用する場所)には据付けない (腐食・劣化の原因になります)	標高1500m以上の高地では据付けない (空気不足により運転停止をしたり不完全燃焼の原因になります)
●直射日光の当たる場所に据付けない ●右側面に壁がある場合は壁サーモの位置を移動してください (室温調節が正しく行われないことがあります)	熱に弱い床面は保護する 熱に強いマット類を敷いてください (吹出口前方の床面は40〜50℃程度になります。床面によっては変色したり、変形・収縮することがあります)	毛足の長いじゅうたんの上に置く場合は、安定のよい敷き板などを敷いて水平にする (製品が不安定になったり、じゅうたんが変色することがあります)

開梱

付属部品の確認

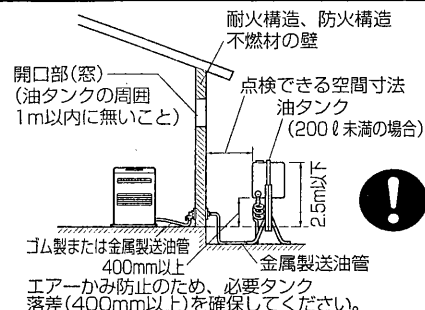
付属部品の使用箇所

※⑭は延長部品のためこの図では表示していません。

油タンクの据付け

油タンクおよび必要なシステム部材の据付けは、各々に同梱の説明書に従ってください。

条件　⚠注意　油タンクとの距離を離す

エアーかみ防止のため、必要タンク落差(400mm以上)を確保してください。

- 付属のゴム製送油管が短く、給油コックに接続できない場合は、当社サービス部品の給油ホース2.5m品(M45508261)をご使用ください。
- 油タンクはアンカーボルトで床に固定するなど、転倒防止の処置を必ず行ってください。

油タンクの据付けは各地の火災予防条例に従ってください。わからないときは、お近くの消防署におたずねください。

■油タンクの据付条件(200ℓ未満の油タンクの場合)

〈屋外据付け〉

- アンカーボルトでコンクリート基礎に固定する。
- 地震などでこわれないよう配管結合部の銅管をループ状にする。
- 油タンクの落差は左図とする。
  低すぎると灯油が供給されず、高すぎると定油面器の安全装置が作動して燃焼を停止したり、定油面器から灯油があふれることがあります。

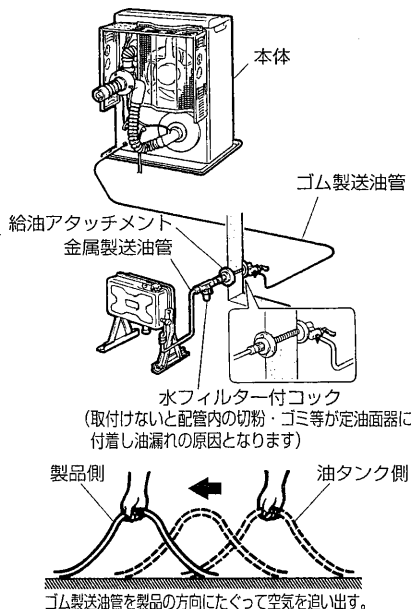
〈屋内据付け〉

- 製品から2m以上離し、不燃性の床に固定して転倒防止を行うこと。

屋内送油管の取付けかた

屋内送油管はゴム製送油管または銅パイプを使用することができます。

(取付けないと配管内の切粉・ゴミ等が定油面器に付着し油漏れの原因となります)

ゴム製送油管を製品の方向にたぐって空気を追い出す。

ゴム製送油管の取付けかた

1. 付属のゴム製送油管を製品の接続口と給油アタッチメントの接続口に差し込み、締付金具で確実に締め付ける。

⚠注意

ゴム製送油管の屋外使用禁止
ゴム製送油管は屋外で使用しない
(ひび割れを生じて油漏れの原因になります)

2. ゴム製送油管を製品側へたぐって空気を追い出す。

- ゴム製送油管の途中が山形になったり、もつれていると、ゴム製送油管の中に空気がたまって油が流れないことがあります。

屋外送油管について

屋外の送油管は必ず金属配管を使用してください。
右表のシステム部材をご利用ください。

品名	形名
銅配管セット	VKZ-20
給油アタッチメント	VKZ-02B・VKZ-04B
水フィルター付コック(金属配管用)	VKZ-8K

据付方法(標準据付け)

壁穴工事

[お願い]

- 穴をあける際、壁内のスジカイ・電気配線・ガス・水道の配管などに当たらないところを選んでください。
- ラス網等は十分カットし、これらの金具部分に給排気筒トップが接しないよう電気的絶縁を行ってください。
  〔電気設備技術基準(第203条)参照〕
- 電源コンセントや送油コックが製品の裏面にかくれないようにしてください。

1

必要なシステム部材

A	なし
B	システム部材(VGZ-4PZ2 1本)
C	システム部材(VGZ-8PZ2 1本)
D	付属伸縮管パイプ
E	付属伸縮管パイプ+システム部材(VGZ-4PZ2 1本)

壁穴位置決め

標準給排気方式の場合、左図により、壁穴位置を決める。

付属の給排気筒トップの壁密着取付可能な壁厚は135~220mm

- 壁厚に応じたシステム部材の選定
  壁厚に応じて下記の付属部品およびシステム部材が必要です。

単位(mm)

壁厚	システム部材	備考
1~80	VGZ-21SP(薄壁対応スペーサー)	壁密着取付けができません
81~134	付属の壁厚対応スペーサー	
90~135	VGZ-09ST(薄壁対応給排気筒トップ)	壁密着取付けができます
220~305	VGZ-30UGM2	
305~390	VGZ-39UGM2	
390~475	VGZ-30UGM2+VGZ-39UGM2	
475~560	VGZ-56UGM2	
560~645	VGZ-30UGM2+VGZ-56UGM2	
645~730	VGZ-39UGM2+VGZ-56UGM2	

2

壁穴あけ

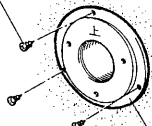
φ65mmホールコアドリルにより室内から室外に向けて約5°の下向き傾斜で穴をあける。(穴の直径が100mmより大きくならないよう注意してください)

絶縁パイプの切断

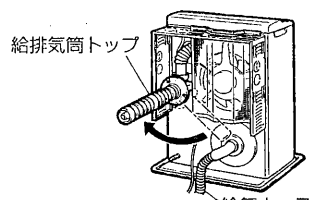
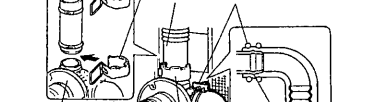
絶縁パイプを壁の厚さに合わせて切断する。

据付方法(標準据付け)

標準給排気工事 (製品本体側の準備)

1

室内傾斜フランジの取付け

壁穴の室内側に室内傾斜フランジを室内傾斜フランジ取付ネジで固定する。
室内傾斜フランジの「上」の文字が上になるように取付ける。

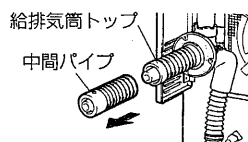
2

給排気筒トップと給気ホースの取付け

(1) 排気筒を回転(矢印の方向に約90度)させる。

(2) 給排気筒トップには給気接続口が2か所あります。取付けやすい給気接続口に給気ホースを接続する。
(3) 付属の給気ホースバンドで給気接続口の山をまたぐように締め付ける。
(4) 使用しない給気接続口には給気接続口キャップを必ず取付ける。

付属の伸縮管を使用する場合

(1) 排気筒のC形ストッパーをはずす。
(2) 伸縮管を排気筒と給排気筒トップに差し込み、接続部にC形ストッパーをはめ込み固定する。
● C形ストッパーは、抜け防止と排気筒はずれ検知装置の電気的導通の役割を果たしていますので必ず取付ける。

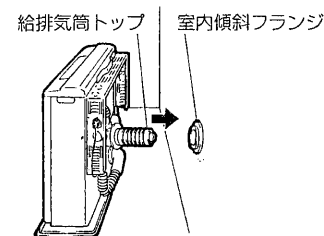
3

中間パイプをはずす

給排気筒トップにねじ込んである中間パイプをはずす。

4

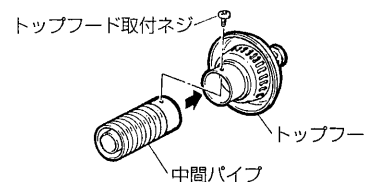
排気筒はずれ検知リードの固定

給排気筒トップに取付けてある排気筒はずれ検知リードを排気筒部分に触らないようにコードバンドで固定する。

5

製品(給排気筒トップ)の壁穴差し込み

(1) 製品をずらし、給排気筒トップのフランジ部が室内傾斜フランジに接するまで壁穴に差し込む。
(2) 絶縁パイプがはずれていないことを確認する。

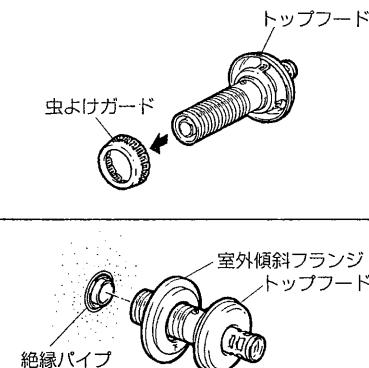
給排気筒トップの固定

1

中間パイプとトップフードの取付け

(1) 中間パイプに取付けてあるトップフード取付ネジをはずす。
(2) 中間パイプをトップフードにはめ込み、ネジ穴を合わせてトップフード取付ネジで固定する。

寒冷地で使用する場合

外気温が－15℃以下になるような地域では
虫よけガードをトップフードからはずして据付ける。
● はずさないとガード部に霜が付着して、給気口がふさがれ、安全装置が作動して運転を停止することがあります。
● 寒冷地では、虫の侵入の可能性は少なく、虫よけガードをはずしても大丈夫です。

2

室外側から室外傾斜フランジ、トップフードの取付け

(1) 室外傾斜フランジを中間パイプに通す。

(2) 室外傾斜フランジを「下」印が下になるように注意して壁に密着させたまま、中間パイプを組付けたトップフードを時計方向に回し、室外傾斜フランジに密着させる。
※ 室外傾斜フランジの外周およびトップフードの外周にパテまたはコーキング材を塗布し、壁の中へ雨水が浸入するのを防いでください。
※ 室外傾斜フランジの壁へのネジ固定が必要な場合は、裏面の凹部(3か所)を市販のタッピングネジで簡単にやぶって貫通することができます。

3

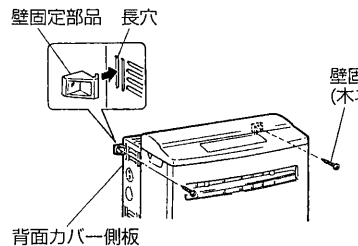
壁厚対応スペーサー
(3個の場合)
トップフード
取付ネジ
トップフード
室外傾斜フランジ
中間パイプ
給排気筒トップ(室内側)

壁厚が134～81mmのとき

■壁厚と使用数量

壁　厚 (mm)	134~113	112~97	96~81
スペーサー使用数量	1個	2個	3個

(1) 付属の壁厚対応スペーサーを図の位置に挿入する。
(2) 中間パイプとトップフードをトップフード取付ネジで固定した後、時計方向に回して固定する。

製品の固定

壁の固定

付属の壁固定部品を背面カバー側板の長穴を使用して製品と壁面を固定する。(2か所)

● 壁の種類により固定のしかたが異なります。(下記参照)

壁が木または厚い合板の場合

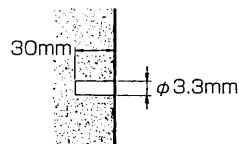
付属の壁固定用ネジ(木ネジ)2本を使用して壁固定部品を壁に固定する。

壁が石膏ボード・薄い合板・土壁・しっくい壁などの場合

① 壁にそえ木をする。
② 付属の壁固定用ネジ(木ネジ)で壁固定部品をそえ木に固定する。

30mm
φ3.3mm

壁がコンクリートの場合

① 左図のように下穴(φ3.3mm、深さ30mm)をあける。
② 付属の壁固定用ネジ(木ネジ)で壁固定部品を固定する。

床の固定

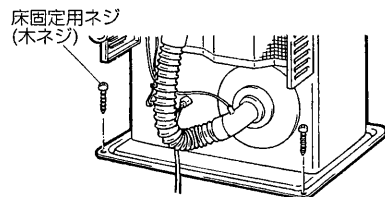
付属の床固定用ネジ(木ネジ)2本を使用して床に固定する。

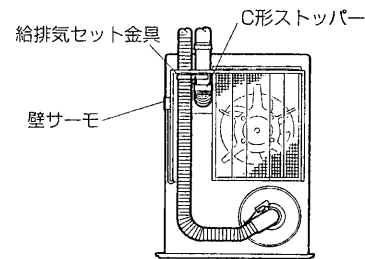
床がコンクリートの場合

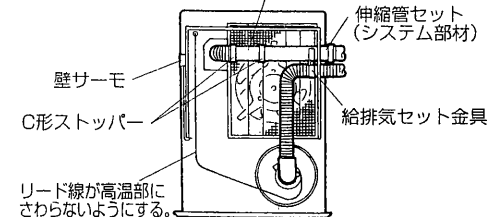
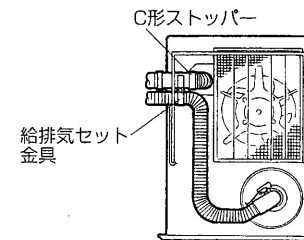
① あらかじめ下穴(φ3.3mm、深さ30mm)をあける。
② 付属の床固定用ネジ(木ネジ)で床に固定する。

延長給排気工事について

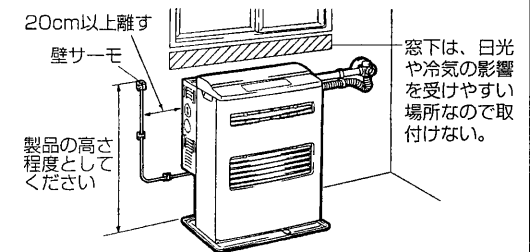
標準給排気工事ができない場合に延長給排気工事を行いますが据付場所に応じてシステム部材の給排気セットが必要です。

延長工事詳細については当社のシステム部材に同梱の「取付説明書」をお読みください。

上側・左側・右側への延長給排気工事要領 〈システム部材を使用〉

〈上排気〉(背面カバーをはずして工事を行う)

〈左排気〉

付属の伸縮管およびシステム部材を使用して図のように配管してください。
(エアーフィルターが排気筒に接触しないこと)

〈右排気〉(背面カバーをはずして工事を行う)

＊右排気の場合は壁サーモの移動が必ず必要です。
(右図を参考にしてください)

壁サーモ取付位置移動の場合

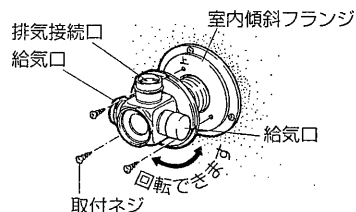
① 壁サーモ(カバー)を上方にスライドさせてはずす。
② 壁サーモ(カバー)を温風・直射日光・冷気の影響を受けない位置にカバー裏側の両面テープを利用して取付ける。
③ リード線は付属のリードクリップで高温部に触れないように止める。

お願い

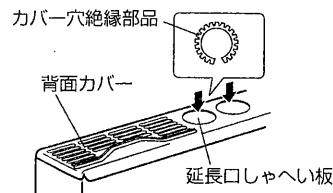
● **上側・左側・右側へ延長給排気工事を行う場合は、給排気セット金具を使用して給気ホースと排気筒を20mm以上離してください。**
(接触すると給気ホースが溶けて異常燃焼するおそれがあります)

● **排気筒・給気ホースを壁サーモに近づけないようにしてください。**
(室温調節が正しく動作しないことがあります)

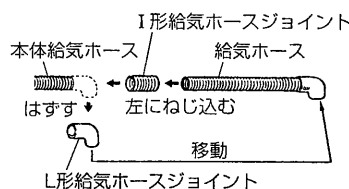
● **排気筒の長さより給気ホースの長さを極端に短かくしないでください。**
(異常音が発生することがあります)

延長給排気工事について

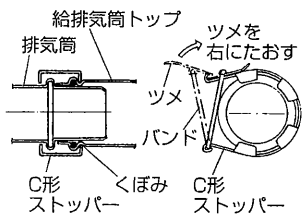
1

壁穴に取付けた室内傾斜フランジに、給排気筒トップを取付ネジで取付ける。

2

背面カバーの延長口しゃへい板の取りはずし

- 製品に取付けたまま延長口しゃへい板をたたくと背面カバーが変形するので必ずはずす。
- 延長口の内周にシステム部材の伸縮管セットに入っているカバー穴絶縁部品を取付ける。

3

給気ホースの延長

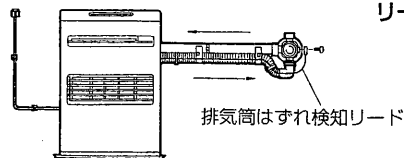
(1) 延長用伸縮管セット(システム部材)の延長用給気ホースを接続する。
(2) 本体給気ホースのL形給気ホースジョイントとシステム部材のＩ形給気ホースジョイントを付け換える。
(3) 給排気セット金具を使用し、給気ホースと排気筒を20mm以上離す。

4

排気筒と給排気筒トップの接続

(1) 排気筒と給排気筒トップを接続する。
(2) C形ストッパーを差し込んで、バンドを掛ける。
(3) 取付け後、ストッパーがきいているか排気筒を引っ張って確認する。

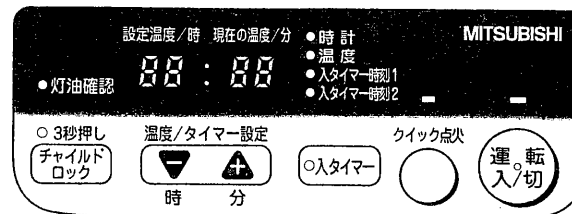
お願い

- C形ストッパーは製品組込みおよびシステム部材に同梱されているもの以外は使用しないでください。
- 無理に接続しないでください。
  (Oリングのねじれが発生することがあります)

5

給排気筒トップの先端に排気筒はずれ検知リードが取付けてあることを確認する。

標高・給排気設定のしかた

据付け条件に合わせ設定を行う。

据付場所の標高・給排気条件により変化する燃焼状態を正適範囲に調節するためです。

1 初めて設定する場合

表示部・操作部

電源プラグを差し込む

- 「ピッ」と音がして、「標高・給排気設定」モードになる

メモ

工場出荷時
- HH：標高モードを表示する
- 標高1ランク
  (0〜250m)
- 標準給排気

2 標高・給排気設定のしかた

＋ ▼ ボタンを押して右表により設定する

標　高(m)	標準給排気	延長給排気
0〜250	(工場出荷時) 1	1L
250〜500	2	2L
500〜750	3	3L
750〜1000	4	4L
1000〜1250	5	5L
1250〜1500	6	6L

3

運転スイッチを一度「入」にすると設定条件を記憶します

- 続けて使用しない場合は、運転スイッチを「切」にする

再設定する場合

(引越しなどで設定を変える場合)

表示部・操作部

電源プラグを差し込み、(チャイルドロック)、(○入タイマー) ボタンを同時に3秒以上押して、「標高・給排気設定」モードにする

- 手順2、3で設定します

- 表示部は時計表示になっています

据付工事後の点検・確認

据付工事が終わりましたら、下表に従ってもう一度点検・確認をしてください。

不具合がありますと火災・排気ガスのもれおよび不完全燃焼の原因となりますので必ず取付けなおしをしてください。

点検箇所		点検項目	参照ページ	チェック結果
製品		製品の回りは必要な空間がありますか。	2	
		床面の不安定な場所に据付けてありませんか。	3	
		丈夫な床面に製品が固定してありますか。	11	
		製品・ゴム製送油管から油漏れはありませんか。	7	
		ゴム製送油管を屋外で使用していませんか。(屋外は金属配管)	8	
		ゴム製送油管が排気部品に触れていませんか。	7	
油タンク		変質灯油、不純灯油を使用していませんか。油漏れはありませんか。	7	
		油タンクの据付けは基準寸法が守られていますか。	7	
給排気部品		給排気筒トップの周囲は基準寸法が守られていますか。	3	
		排気筒に給気ホースやカーテンなど、燃えやすいものが接触していませんか。	4・5	
		給排気筒のはずれ・ゆるみがありませんか。	9	
		排気ガスが屋外へ排気されるようになっていますか。	2・10	
		給排気筒トップの取付けが屋外に向って下り勾配になっていますか。	4	
		給排気筒トップの周囲に障害物(樹木・愛がん動物・雪のふきだまり)はありませんか。	2・3	
		給排気筒トップの周囲に危険物(灯油・ガソリン・プロパンガス)はありませんか。	4	
		トップフードが必ず取付けられていますか。	10	
		トップフードの給気口・排気口がビニール袋などの異物でふさがっていませんか。	4	
		集合煙突に給排気筒を取付けた工事はされていませんか。	4	
	延長工事	床下・天井裏へ給排気してありませんか。	3	
		壁埋込みの配管工事はしてありませんか。	—	
		排気筒の長さは給気ホースに比べ極端に長くなっていませんか。	12	
		給気ホース・排気筒の長さは3m以内で曲がり数3箇所以内ですか。	5	
		排気筒の途中に水がたまるようなへこみ部はありませんか。	5	
		排気筒のドレン戻り寸法は1.8m以下になっていますか。	5	
電気配線		電源プラグはコンセントに確実に差し込まれていますか。	16	
		電源コードは高温部に触れていませんか。	8	
		電源コンセントは電源プラグの抜き差しが容易な位置にありますか。	8	
排気筒はずれ検知リード		排気筒はずれ検知リードは、給排気筒トップに接続されていますか。	9	
		排気筒はずれ検知リードは、給気ホースにそって固定されていますか。	9	

試運転

お客さま立合いで試運転を行ってください。

運転準備

1

油タンクに給油した後、油タンクの送油バルブと給油アタッチメントの送油コックを「開」にする。

お願い

● 変質灯油、不純灯油などは、使用しないでください。

2

リセットレバー

定油面器のリセットをする。

(1) 定油面器のリセットレバーを下へ1回下げる。

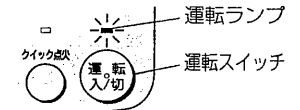
(2) リセットレバーが元の位置に戻っているかを確認する。

3

電源プラグがコンセント(単相100V)に確実に差し込まれているか確認する。

運 転

運転ランプ
クイック点火
運転 入/切
運転スイッチ

1. 運転スイッチを押して「入」にする。
   運転ランプが点灯し、5〜6分後に燃焼を開始し、温風が出る。その状態で約15分間運転して異常表示等が出ないか確認する。
   異常表示がでたときは、取扱説明書の『故障・異常の見分けかたと処置方法』を参照願います。
2. 再度運転スイッチを押して「切」にする。
   運転ランプが消灯し、燃焼を停止します。しばらくして本体が冷えると対流用送風機が止まり、運転が停止する。

メモ

● 室内温度が30℃以上ある場合に試運転するときには、温度/タイマー設定ボタン▲を5秒以上押し続けて「H」を表示させると最大燃焼量で連続運転を行う。

● 連続運転は自動的に約10分間で解除しますが、▼ボタンか運転スイッチを「切」にしても解除できます。

お客さまへの説明

1. 取扱説明書に従って製品の取扱いを説明してください。
   特に「安全のために必ず守ること」の項は、安全に関する重要な注意事項を記載していますので、必ず守るようご説明ください。
2. 保証書に必要事項を記入のうえ、保存のお願いをしてください。
3. この据付工事説明書は引っ越しなどで製品を移動する際に必要となりますので、取扱説明書とともに必ずお客さまに渡して、一緒に保存してくださるようお願いしてください。

三菱電機株式会社
群馬製作所　〒370-0492　群馬県新田郡尾島町岩松800